



社会福祉法人 村 山 苑

村山苑だより



一年を振り返って

「コロナウイルス感染症拡大防止の 対応から思うこと」



ほんちよう保育園 園長 右田 尚子

現在、世界中を混乱に陥れている新型コロナウイルスの感染が広がってきたのは、年明け頃からだったでしょうか。見えないもの、わからないものに不安は増大しています。

その時期の保育園は、ちょうど一年の終わりに向かい進級、卒園が近づいた子どもたちの姿がグンと変わる時です。数人で頭を寄せてグループでの作品を仕上げたり、顔を見合わせて話し合いをしたり、肩を寄せ合い一緒に絵本を見たり、泣いている子を気遣い頭を撫でに行ったり・・と子ども同士の関わりが一層密になってくる時期です。そしてそのような姿が育つことを願い、保育士は日々の保育を積み重ねてきています。

年度末から年度初めは集う機会が多く、行事の計画を立てるにあたり感染拡大防止のため「密集、密閉、密接」を避け、多くの人数にならないように、長い時間にならないように、子ども同士の距離がとれるように・・どこを残してどこを縮小するのか、と検討することは「何を大切にするのか」という視点で、改めて行事を考えることができました。

昨年四月から園長という任を賜り模索の日々ですが、この一年を振り返りコロナウイルス感染症への対応を含め「子どもの最善の利益」という視点からも、より一層広い視野を持ち多面的に物事をとらえる難しさを実感しています。

日々の保育を積み重ねている職員がいて、その職員の数だけそれぞれの事情があり、それぞれの場で責任を持つて仕事をしているからこそ保育園が役割を果たせている、という繋がりに目を向けることの大切さ、役割の重さを心に刻んでいます。

刻々と変化する子ども・子育てをめぐる制度や情勢、そして現状のような感染症の拡大等、次々に対応しなければならぬ課題がやってくる中、ネガティブにならず平常心を保ち「子どもの最善の利益」という同じ方向を向き、職員全体が「ONE TEAM」となる機会ととらえ、今後も自らの役割を果たすべく力を尽くせるよう努力したいと思っています。

救護施設の今後について

村山荘 施設長

田島 博志

救護施設の今後を考える上で、目下その影響を注視しなければならぬのが「日常生活支援住居施設（略して日住）」の動向です。日住は、平成三十年六月、生活困窮者自立支援法等の一部改正の流れにより創設されました。

社会的に問題となっていた、無届け宿泊所等での劣悪な生活環境や生活保護費の搾取、いわゆる貧困ビジネス対策としての法的な規制をかけると共に、一時的な寝泊まりの場所の提供だけではなく日常の生活支援を行う体制を整え、適切な環境で事業を行う無料低額宿泊所が日住として委託を受けることとなります。改正生活保護法第三十条の中で、救護施設・更生施設に加えて日住が併記されましたが、対象者や支援内容など、保護施設とどのように棲み分けするのか「社会福祉住居施設及び生活保

護受給者の日常生活支援の在り方に関する検討会」で討議されてきました。

それぞれの立場からの意見により紛糾しつつもなんとか素案が示されましたが、やはり対象者も支援内容も救護施設の実態と多くの面で重複しているものとなっています。居室では日常生活を営むことが困難であるが、社会福祉施設等に入所の対象とはならず、日住の支援が必要なのか否かを福祉事務所が判断することになります。様々な事情を抱え、当座の居住場所及び生活支援を必要とする人たちにとって、日住という社会資源を強化し適正化する意義は大きいものがあります。

しかし捉え方によっては救護施設の廉価版代替施設となりかねず、長年果たしてきたその役割と存在意義が損なわれないよう尽力し発信していくことが求められます。救護施設は、一人ひとりに寄り添いながら幅広く「生活全般に渡る支援」を展開する体制とノウハウを有しています。

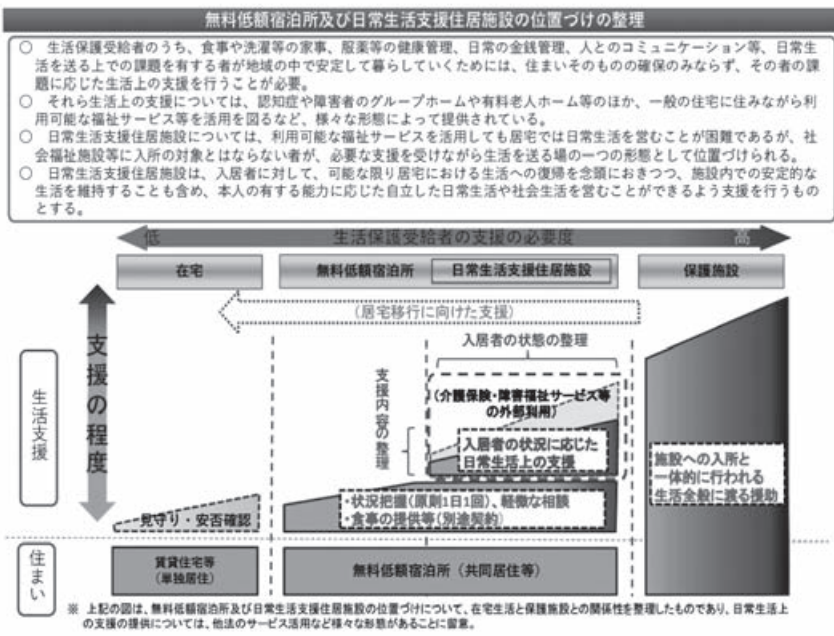
限られた時間と情報で行う要否判断におけるアセスメントでは見えてこない、その人の潜在的課題と可能性を見出す専門職チームでの支援を実践してきました。日々の生活の維持だけではない、将来ビジョンを描けるような支援を心がけてきました。

人の状況は常に変化します。対象者を切り分けるのではなく、その人の状況により日住での支援から救護施設での支援へ、その逆のケースも含めて柔軟に対応できるように

なれば、かなり効果的な自立支援が可能となります。今般の新型コロナウイルス禍により、生活困窮者の情勢の大きな変容が懸念されます。時代時代の社会ニーズに对应してきた救護施設も、救護単体では対応困難な事例が多くなるでしょう。今まで培ってきた実績を更にブラッシュアップさせながら、

本年十月からの委託開始により実質稼働となる日住と有機的な連携を図り、頑強なセーフティネットを構築していくことが重要であると感じています。

出典「令和二年三月生活保護関係全国係長会議資料（厚生労働省）」



令和二年永年勤続者表彰

令和二年一月十日（金）村山苑恒例の新年の集いを催し、その席において次の十七名の方々が品川理事長より永年勤続の表彰状および報奨金を授与され、参加者の祝福を受けられました。

勤続四十年	さつき荘	兼平芳和
勤続三十五年	さつき荘	手塚真一
勤続三十年	ハトホーム	馬場清亮
	第2ハトホーム	佐藤恵美
	福祉事業センター	岡野雅和
	つぼみ保育園	吉成晋二
勤続二十五年	村山荘	芳賀真由美
	勝本剛司	
	田島博志	
	早川貴弘	
勤続二十年	村山荘	鈴木千絵
	棚田亮介	
	野崎	
勤続十年	ハトホーム	高水紀幸
	ハトホーム	長澤昌也
	ひよし保育園	小嶋幸代

六十五歳定年退職を迎えて

さつき荘

兼平 芳和

ハトホーム、村山荘、さつき荘で事務員として従事し早四十二年。村山苑の温かく和やかな環境に護られてこの六十五歳定年退職の日を迎えられたことに感謝し、故高山照英元理事長、故大内山ナミハトホーム初代園長をはじめ皆様方には心よりお礼を申し上げます。この間、かつての特養も十か年戦略（ゴールドプラン）のもとに夢のような構想をもって邁進しようとしたが、バブル経済が崩壊し介護保険制度が導入されました。社会福祉は財政状況に左右されやすく、目的論的改革によつて個人の真の福祉を置き去りにしないよう、社会福祉の最前線に在る我々は慎重に判断し対応しなければなりません。社会福祉の基本である科学性・技術・人間尊厳に加えてわが母校松洋中学校吹奏楽部の座右の銘F（フアイト）、M（マナー）、T（チームワーク）にL（リテラシー）と「品格」を加え提唱し、かのダグラス・マッカーサー元帥が言われたとおりの「老兵は死なず、ただ消えゆくのみ」であります。ありがとうございます。さようなら。



勤続四十年を迎えて

福祉事業センター

芦崎 康彦

村山苑に入職して四十年、北海道の片田舎から出てきた私が大学を卒業して村山苑に就職したのが昭和五十四年でした。福祉事業センターに始まり、村山荘、福祉事業センター、さつき荘、福祉事業センターと障害関係の施設で貴重な経験を重ねることが出来て現在に至っています。四十年を振り返ると様々な事が思い浮かびます。障害者スポーツを通じて、利用者の方々と共に練習を重ね、身体障害者やパラリンピックに選手を輩出するのと同時に、私自身も国体や国際大会、長野パラリンピックにもコーチで参加する機会に恵まれたのも法人の理解があったからこそと感じています。また、利用者支援や施設経営（運営）の在り方などを学ぶ事ができました。現在も福祉の難しさを改めて痛感していますが、今後も微力ながら法人に貢献できればと考えています。皆様の励ましやご協力を頂きながら勤め続ける事が出来ていることに、この場をお借りして感謝を申し上げます。

勤続三十年を迎えて

つぼみ保育園

芳賀真由美

新人の頃、危なっかしい私を見守ってくれた保護者の方々。その後、同世代のお父さん、お母さんたちが増

え、今や私は子どもたちのおばあちゃん世代と同じ年齢に。担任していた子どもたちが成人し、子どもが生まれてまた、保育園に戻ってきて再会する機会ができてきたのを思うと三十一年という時間が経ったのを実感します。実習生の時、子どもが何を言おうとしているのか聞こうとする耳とそれを考える頭と心を持った保育士になりたいと思ったことをよく思い出します。三十年、たくさんの人と出会って、たくさんさんの経験をして、たくさんさんのことを学んできました。“保育ってあれが大事ここを大切にしなければ”とその歳その歳で、いろいろなことを考えてきたけれど保育に一番大事なことは“楽しい”ということなのではないかと最近、強く思うようになりました。楽しいからこそのやりたい。楽しいからこその心が動く。大人と子ども、お互いが鏡のように映し合っていたのしさがふくらんでいく。とてもシンプルだけど、それゆえにとっても大事だと思っております。そしてそれは、若い頃に感じていたことでもあります。保育士として働いて三十年経った今、思い出すのは保育士として歩き始めたばかりの頃のこと。きつと初心に戻りなさいということなのだと思います。保育士は日々勉強。そう言った先輩の言葉を思い出し、一步一步進んでいきたいと思っています。最後に、こんなに長い間働いてこられたのは一緒に時間を過ごし、楽しいことも辛いことも分かちあってきた仲間がいたからこそです。そのことに感謝しながらこれからも大切にしていきたいと思っています。

勤続二十五年を振り返って

さつき荘

早川 貴弘

令和二年一月十日、法人新年会の席において勤続二十五年を祝っていただきありがとうございます。改めてこの二十五年間を振り返ると「あつという間」、「長かった」、「無我夢中」と感慨深い思いが起こされる二十五年間だったと思います。

二十代半ばでしかも中途採用という形でさつき荘に就職したものの、知識や経験も乏しく、果たして職員として務まるのだろうかと不安でしかなかった私が二十五年間勤続できたのは利用者の皆様をはじめ、職員や多くの関係者の方々のおかげだと深く感謝致しております。

近年、福祉を取り巻く情勢は厳しくなる一方で利用者の皆様には満足いく支援を提供していくことが難しくなってきました。このような時こそ、私が二十五年間で得てきた知識や経験を活かし、利用者の笑顔絶やさぬよう、そして若い職員の参考になるようこれからも邁進していきたいと思えます。

勤続二十年を迎えて

ほんちようケアセンター

野崎 礼

「仕事好きでしょ」自分で感じたこ

とはないのですが、振り返れば「楽しんで仕事をしている」様に見えたのかもしれません。今があるのは新卒で入職した「一風変わった私」を温かく迎えて入れ、自由な発想を形にさせてくれた上司や先輩、同僚、ご利用者のお陰だと、とても感謝しています。

当時の私は「髪型も奇抜」「仕事着も派手」まるで福祉とは正反対の装いでした。そんな私を受け入れ教育し「今」を迎えさせてくれた方々、ハトホーム、村山苑。そして家族。残り二十三年・・・私が今できることRUN伴「スポーツを通して職種を問わず横の繋がりを作る」この先やるべきことは「福祉に多色種」人間力が育ち、活かせる環境作りをすることが、私にできる村山苑への恩返しだと思っています。東村山に生まれ、育ち、村山苑に勤めて、愛着ある東村山中を駆け回るケアマネジャーに就き「足るを知る」今を大切にしていきたいです。

勤続十年を迎えて

ハトホーム

長澤 昌也

他法人の特養で約七年間勤め、その後村山苑に就職しました。配属先はハトホームの南館でした。当時の介護主任から「今までの経験を活かして新しい考えを教えてください」と言われたことを覚えています。しかし、むしろハトホームから学ぶべき

こと、吸収すべきことが多く、それら一つ一つを自分のものにし、早くハトホームの一員として仕事ができるよう諸先輩方の背中を追いかけました。

ハトホームにも慣れ、利用者ももちろんご家族とも関係が作られつつあった頃、北館フロアに移ることにになりました。南館から離れることに、少し寂しさも感じましたが、フロアが変わっても同じハトホームであることに変わりはなく、むしろ学びと経験の場が増えることは私自身の成長に繋がると思いました。

村山苑に勤めて十年、この十年の間に介護保険制度の見直しや介護報酬改定のために、経営環境の厳しさや利用者負担が増すなど会議等で耳にしてきました。加えて人材が確保しにくい状況が続いています。こうしたことは利用者支援に、そして私たちの働き方や業務にも少なからず影響を及ぼしているのではないかと思っています。介護保険事業を取り巻く環境、制度等に関心を持ち、広い視野で問題をとらえ、柔軟に対応する実践力が求められていると思えます。私自身のこれからの課題にしたいと思っています。

十年を終えて

ひよし保育園

小嶋 幸代

私は平成三十一年四月一日で勤続

十年を迎えることができました。つぼみ保育園で八年、ひよし保育園に異動になり五年目になります。何をやっても三日坊主の私が唯一続けられていることです。初めは保育園の事も、給食の事も分からず続いた仕事ですが、周りの方々から教えて頂き、助けて頂き今まで一緒に働いて頂いたすべての方に本当に感謝しています。

保育園で食事は年齢に合った食べやすい食事と、一人ひとりの咀嚼の力を引き出せるような、一歩先の子どもたちの発達の手助けとなるような食事作りを心がけていきたいと思えます。そして入社して十年が経ちました。給食室での年齢も一番上になってしまいましたが、初心に戻り自分の事だけでなく広い視野で給食室全体の事を考えられるようになりたいと思えます。そしてみんなが楽しく働ける環境が作れるように努力したいと思えます。



令和二年度 事業計画

まず、村山苑における経営の基本となる基本理念と、基本理念に基づく法人内各施設の基本方針、及び法人が規定する倫理綱領、行動規範の周知徹底を挙げておきたい。

ここ数年、法人事業の安定的な継続を図るための人材確保が喫緊の課題となっている。令和二年度は「ハトホーム」で八月から外国人技能実習生の受け入れを始める。既に「第2ハトホーム」で外国人留学生を派遣で受け入れてきており、その実績からノウハウを活かしたい。また、在職職員の定着に努めることも重要であることから、働きやすい職場環境の改善を図るほか、職員の意見を聞きながらの研修計画を立て、個々のスキルアップ体制を充実させる。また、働き甲斐を実感できる賃金体系も再検討していくことが必要であると考え。確保にあたっては、引き続き、養成校等への積極的な働き

かけをはじめ、作成したPR動画やフェイスブック、ユーチューブ、ホームページなどの宣伝媒体を有効に使用していくとともに、実際に法人施設内での「求人フェア」活動を地域に向けたイベントに絡めて実施していきたい。実習校のみならず近隣高等学校や大学、また東村山市内地域の方と普段から交流を深め、法人施設を理解してもらう機会を多く設けていくことで人材の確保に繋げていきたい。また、高齢者雇用や就労支援センターなど関係機関と連携しながらの障害者雇用にも積極的に取り組んでいきたい。

利用者支援については、今年度も引き続き「村山苑虐待防止ブック」を基に、施設種別を問わず利用者に対する虐待防止の取り組みを行っていく。「不適切な支援は虐待にあたる」という観点から、職員自らの自己評価を行い、率直に話し合える職

場環境・風土づくりに更に力を入れたい。苦情対応については、利用者・保護者からの意見・要望が出易い環境を整え、出された意見(苦情)・要望には真摯に耳を傾け、適切に対応していく。虐待防止、苦情対応、事故防止は関連していることから、

他法人や法人内他施設との交換研修等を行い、また、実習生や見学者、ボランティアなどの外部の目を入れることに努力し、利用者サービスの更なる向上を図りたい。

施設設備整備としては、昨年度から第2ハトホームの増改築工事が始まっている。足掛け三ヶ年の大事業であり、法人各施設の協力を得ながら進めていきたい。

1. 法人体制

昨年度のハトホーム南館等建替に伴い、本部事務所をハトホーム事務所に移転し、共同で利用することとした。

対外的にもWeb申請等が増えて

きており、法人事務局の体制を見直して、より施設との情報共有を緊密にし、事務処理の合理化・効率化を図っていきたい。

また、救護施設を中心に実施している生活相談所は、今後さらにアウトリーチに力を入れ、東村山市内法人連絡会の「暮らしの相談ステーション」窓口としても地域公益活動の拠点としたい。中間的就労の受入についても引き続き法人が窓口となり、全施設で対象者への支援を行っていく。

2. 介護保険事業

平成三十一年度に始まった第2ハトホーム増改築工事は、令和二年度本格的に建築工事が始まる。清瀬の代替え施設利用に係る経費と改築工事費を合わせて総額約十八億円弱の大事業である。資金は、法人手持ちの資金で賄うことにしているが、借入金については、今後長期に渡る返済財源が必要となる為、安定的な事

業継続を要する。事業の安定的継続には、ハトホーム、ハトホーム在宅サービスセンター、第2ハトホーム、ほんちようケアセンターの介護保険事業全体で、収益の増が求められる。そのためには、職員一人ひとりにまで現状と今後の事業目標を周知して理解を得、法人施設一丸となって取り組んでいきたい。導入したICTを活用し、業務改善・効率化をして、介護職員の確保にも繋げたい。

利用者サービスにおいては、既存のサービスを常に点検して向上を図り、また引き続き、虐待防止の体制の検証を確実にしながら、職場内研修を継続していく。

3. 生活保護施設事業

改正生活保護法に基づき新たに日常生活支援住居施設が創設されることになった。単独で居住が困難な生活保護受給者に対する適切な日常生活上の支援を行う施設として定義され、救護施設との役割

分担や連携が整理されてくる。より専門的対応で利用者に対する個別支援計画を策定し、それに基づいた具体的な支援を実施していきたい。村山苑の二施設では、積極的に地域社会におけるセーフティネット施設の役割を果たすため、個別支援計画に基づき、利用者の地域生活移行支援の強化と、他種別施設への移管に取り組み循環型の施設としての機能を強化していく。

4. 保育事業

保育四園が共通の「たくましく」の保育目標の下、「すべての子ども・子育て家庭を対象に幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育ての質・量の拡充を図る」とする法の趣旨に添い、時代が要請する新たなニーズにしっかりと向き合っていく。保育士等の処遇改善では引き続き、指定制の受講等でより実効性のあるキャリアアップに向けた取り組みを

行う。また、昨年度導入したICTを有効に活用し、業務の効率化を図ることで、保育従事者の確保、定着にも繋げたい。

5. 障害福祉サービス事業

令和二年度には、東村山市においても国が求めている「地域生活支援拠点」の体制が整備される。福祉事業センターにおいても、体験の機会・場の提供を地域貢献の一環として取り組むことにしている。

利用者支援では、就労継続支援B型、就労移行支援、就労定着支援ともに、個々の状況に合わせた作業や訓練の内容を見直す等で多様なニーズに添えていきたい。また障害者福祉施設職員による虐待事案は年々増加しており、看過できない問題である。「虐待は犯罪である」という意識をより深め、職員一人一人がこの問題に真摯に向き合い、よりよい利用者支援の充実を図りたい。

お昼ごはんのお届け事業

東村山市内社会福祉法人連絡会で、お昼ご飯のお届け事業をしています。

給食がなくて困っているご家庭の小中学生に市内の福祉施設で作ったお弁当を配達するというものです。村山苑では、五月十一日からつばみ保育園、五月十八日からはふじみ保育園も加わり提供しています。



施設通信

第2ハトホーム

生活に潤いを与える居場所づくりの充実を目指して

岡野 雅和

昨年九月から「仮住まい」での生活を送っている第2ハトホームですが、入居者の皆様への標準的なサービスの提供のための業務の調整や工夫を優先してきたこと、または期間限定の地であることや職員数の少なさなどにより行事やクラブ活動、レクリエーションやボランティアの活用などの余暇支援が中々思うように提供できていませんでした。移転から七か月が過ぎ、少しずつできることが増えてきている状況の中、余裕のある建物の造りの長所を生かした取り組みが「談話コーナー」のオープンです。入居者の余暇活動について「喫茶コーナーのような場所や気分転換になる居場所づくりなどを検討したい」との職員の要望を皮切りに、余暇活動についてのアンケートを実施。様々な意見の中からすぐに行えることとして、空きスペースを使った談話コーナーを作ることとしました。

今はまだ場所ができただけでなく、ご家族との面会場所やくつろぎのコーナーとして活用できるように、ご自宅で不要となった本やテーブルゲームなどの提供を職員にお願いしているところですが、東村山市に戻るまであと1年、入居者の皆様が心身ともに健康で帰ることができるよう制限のある中でも潤いのある生活の場が提供できればと思います。



新型コロナウイルス感染症対策について

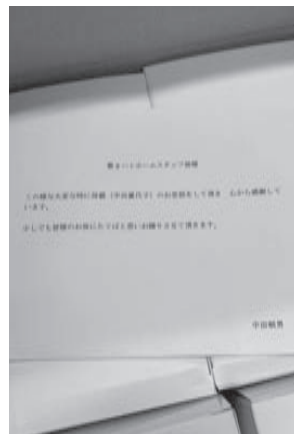
令和二年二月から徐々に拡がってきた新型コロナウイルス感染症の対策として、村山苑では、各施設での対策に加えて、法人全体の感染症防止対策委員会を立ち上げ、施設種別ごとの対策を徹底しました。

行事等は縮小や中止することで「3密」を避け、職員への外出等の「自粛」、入所施設の面会制限、保育園の登園自粛お願い等に皆さまのご協力をいただき、事業継続しております。

また、新型コロナウイルス感染症予防にと、以下の皆様方からマスク等のご支援をいただきました。心から感謝申し上げます。



提供先…厚生労働省・東京都・東村山市・国分寺市・東村山医師会・株式会社ケアシステムズ・江川香代子・斉藤弘美・株式会社真栄パートナーズ・はっぴねす事業協同組合・社会福祉法人信愛報恩会後援会・中田朝男・特定非営利活動法人ピースウィングズ・ジャパン・武蔵野ミルクセンター・東京ヤクルト販売株式会社瑞穂事業所・株式会社コスモス医工・アイリスチトセ・花王プロフェツショナル・サード・株式会社・株式会社ジャクエツ・蔵の花屋コトハ（敬称略、順不同）



苦情解決
第三者委員
からの
報告

苦情受付状況を年度の前期と後期に分けてホームページで公開し、第三者委員に報告しています。令和元年度の第三者委員の施設訪問実績は、左記のとおりです。

- ▼ハトホーム
平成31年4月14日、
令和元年9月15日、
令和2年2月25日
- ▼ハトホーム在宅サービスセンター
令和元年6月25日、10月18日、
令和2年2月4日
- ▼第2ハトホーム
令和元年11月5日
- ▼ほんちようケアセンター
平成31年4月26日、
令和元年9月14日
- ▼村山荘
令和元年6月26日、10月18日、
令和2年2月19日
- ▼さつき荘
令和元年6月4日、10月7日、
令和2年2月4日

**苦情解決
第三者委員**

任期 平成31年4月1日～
令和3年3月31日



野田 敦子



田村 均

【資格取得者】

次の方々が新しく資格を取得されました。おめでとうございます。日々の業務に活かされ、ご活躍を期待しております。

- ▼福祉事業センター
令和元年6月25日、10月24日、
令和2年2月25日
- ▼つばみ保育園
令和元年5月21日、9月26日、
令和2年1月30日
- ▼ふじみ保育園
令和元年5月21日、9月26日、
令和2年1月30日
- ▼ほんちよう保育園
令和元年9月14日
- ▼ひよし保育園
平成31年4月6日、
令和元年10月10日

- △社会福祉施設長資格認定講習課程
ほんちよう保育園 右田 尚子

- △介護福祉士
さつき荘 山本真由美
ハトホーム 中村 明
ハトホーム 風間 元温
ハトホーム在宅サービスセンター 杉野 元子
第2ハトホーム 永弘 禎幸
- △保育士
ほんちよう保育園 鈴木 輝美

村山苑が経営している施設

- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-5
●法人本部 ☎042-3993-8496
- むらやまえん 生活相談所 ☎042-313-0301
- 村山荘(救護施設) ☎042-3991-1262
- ハトホーム(特別養護老人ホーム) ☎042-3993-7574
- ハトホーム在宅サービスセンター ☎042-3998-2555
- 福祉事業センター(障害福祉サービス事業) ☎042-3995-3636
- ふじみ保育園(保育所) ☎042-3994-9936
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-8-2
●さつき荘(救護施設) ☎042-3996-2244
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-2-2
●つばみ保育園(保育所) ☎042-3993-6400
- 〒189-0014 東京都東村山市本町3-43-1
●ほんちよう保育園(保育所) ☎042-3999-2100
- ほんちようケアセンター(高齢者施設) ☎042-3999-2102
- 〒185-0003 東京都国分寺市戸倉2-27-6
●ひよし保育園(保育所) ☎042-843-0202
- 〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-3-32
●第2ハトホーム(特別養護老人ホーム) ☎042-497-3200

▲あしがき▼

新型コロナウイルス感染症の拡大が収まりません。法人として対応し、また各施設職員努力により、なんとか施設運営を維持しております。一日も早く事態が収束し、皆様が普通の生活に戻れることを願っております。

感染拡大を受け、各施設の行事を自粛しております。地域の皆様にも楽しんでいただいている村山苑納涼祭も中止せざるを得ません。ご理解のほどよろしくお願ひ申し上げます。(手塚)



—表紙の写真—
「北山公園」

本誌は本人同意のもとに写真・作品等を掲載しております。
* * *
ご意見・ご感想等お気付きの点がございましたら、左記へお寄せ下さい。

令和二年五月吉日 発行
東京都東村山市富士見町二七五
社会福祉法人 村山苑
発行者 品川 卓正
印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都墨田区両国四一八